

# 令和6年度 学校評価について

阿南市立橘小学校

## 1 令和6年度学校教育目標等について

令和6年度、本校は「ともに生きる力としなやかに伸びる力を持ち、たくましく夢を追求する児童の育成」を目標に掲げ、「笑顔・あいさつ思いやりがあふれる楽しい学校」、「自ら学び、考え、行動する児童」、「語り合い、認め合い、高め合う、活力ある教職員集団」の実現を目指し、「たのしく チャレンジ! ばっちり学び なかまと夢を追求する 橘っ子」を学校スローガンに掲げ、次の三つを基本方針として、教育活動に取り組んでまいりました。

### 教育目標達成の基本方針 「ほめる教育の推進・深化・定着」

- 1 子どもたち一人一人のよさを見つけ、認め、ほめて、伸ばす
- 2 児童を見つめ、寄り添い、対話する
- 3 PBS(ポジティブ行動支援)の徹底基本方針

具体的な努力事項は次の五つです。

#### 1 学力の向上・・・デジタル教科書やタブレットを活用した授業・自主学習ノート・新聞活用授業

読書活動の充実・全校音読など表現力の育成

#### 2 豊かな心の育成・・・挨拶、返事、感謝の言葉・命と人権を大切にする人権教育・多様な体験活動と

ふるさと学習の充実・読書活動の充実・美しい教室と校内環境

#### 3 体力の向上・・・体育授業の充実・めあてをもった体力づくり・歩いて登校、外遊びの奨励・「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけ・保健指導に関する家庭との連携

#### 4 安心・安全の確保・・・防災教育の推進・交通安全指導の徹底・いじめ、不登校ゼロをめざす生徒指導の充実・教室や校舎内外の整理、整頓と安全点検

#### 5 保護者・地域との連携・・・学校だより・学年だより・HP 等積極的な情報発信・教育相談の充実・学校運営協議会、スクールガード、読み聞かせの会、自主防災会との連携

創立150周年記念事業を通じた地域との交流

また今年度は阿南第二中学校区人権教育研究会の会場校となり、創立150周年行事も控えていること、防災教育の重要性がますます高まっていることなどから、「ふるさとを愛し、ふるさとの未来を守る子どもの育成」というテーマで、阿南市の委託研究「特色ある学校づくり」にも取り組みました。

これらの取組の結果、めざす学校・めざす児童・めざす教職員集団は実現できたのか、どのような成果があったのか、どのような課題が浮かび上がってきたのか、来年度に向けてどのように課題を解決していけばよいのかを明らかにするため、児童・保護者・教職員へのアンケートという形で学校評価・学校関係者評価を実施しました。

## 2 令和6年度学校評価について

- (1) 学校評価は、児童・生徒がよりよい教育活動を教授できるよう、学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準と向上を図ることを目的として行います。橘小学校では児童・保護者・教職員が一丸となって学校教育目標達成を目指していこうと、昨年度より「**学校目標達成に向けての評価項目 三者一覧表**」を作成し、教職員が行う「自己評価」、保護者が行う「学校関係者評価」、児童による評価を実施し、学校運営について評価・改善を図っています。

具体的には、子どもたちには「めざす児童像」に掲げられた目標が達成できているか、保護

者には自分のお子さんが「めざす児童像」に掲げられた目標の達成ができていないか、また達成させるための働きかけができていないか、についてアンケートを実施するとともに、教職員には子どもたちが目標を達成できるようにどのような手立てができたか教員評価（自己評価）を行いました。

- (2) 昨年度から、アンケート・自己評価への回答はタブレット端末やスマートフォンを利用した **Web上でのオンライン回答方式に変更**し、回答者・集計者の利便を図っています。12月11日（金）、学校評価アンケート実施についてのお願いを保護者宛に出し、2週間をアンケート実施期間としました。児童・教職員についても同期間に実施し、児童については、朝の活動の時間に棟を利用し、タブレット端末から回答してもらいました。回答率は、児童は96%(59/61)、保護者は91%(56/61)でした。(児童一人ずつについて回答してもらったため。)

### 3 学校評価アンケート結果(11ページ～229 ページ)

#### 4 アンケート結果の考察

- ① 児童の学習・生活等に関して昨年度と比較(児童・保護者による評価)

昨年度との比較

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童の割合

アンケート項目	R5児	R6児	R5保	R6保
① 学校が楽しい。	92	<b>89</b>	96	91
② 早寝・早起きができています。	72	<b>69</b>	97	82
③ 朝食を食べている。	94	91	99	98
④ 歩いて登校している。	46	<b>58</b>	53	50
⑤ 毎日宿題をしている。	93	91	91	91
⑥ 自主勉強や読書をしている。	69	<b>63</b>	76	70
⑦ 漢字の読み書き・計算・音読ができる。	87	<b>88</b>	85	<b>90</b>
⑧ タブレットを使うことで学習が分かりやすい。	79	<b>87</b>	51	<b>54</b>
⑨ 当番・係活動・掃除ができています	90	<b>93</b>	71	68
⑩ 挨拶や返事ができています。	94	92	89	87
<b>⑪ いじめをしないで友達と仲良くしている。*</b>	89	<b>100</b>	100	<b>100</b>
⑫ 学校のことをよく話している。	86	84	89	<b>90</b>
⑬ 災害発生時の行動の仕方が分かる。	93	<b>95</b>	91	86
⑭ 授業の内容が分かる。	95	<b>97</b>	91	84
⑮ 先生はがんばったことをほめてくれる。	90	<b>93</b>	89	84
⑯ 外遊びや体力づくりをしている。	90	88	73	70
<b>⑰ 自分にはよいところがあると思う。*</b>	94	<b>78</b>	95	<b>96</b>
⑱ 困ったときに助けてくれる友達がいる。	93	<b>95</b>	95	93
⑲ 阿南市や橘町が好きだ。	89	<b>91</b>	89	<b>92</b>
⑳ 学校で勉強したことを生活の中で使っている。	91	<b>95</b>	87	<b>90</b>
㉑ 将来の夢をもち、がんばっている。	77	<b>86</b>	60	57

※⑪の設問は、昨年度は「きまりやルールを守って生活している」でした。

※⑰の設問は、昨年度は「自分の命や人権を大切にしている」でした。

**※昨年度より割合が増えた項目については太字。**

12項目において「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が昨年度より増加していますが、9項目において減少していることは大きな課題と受け止めています。

学校は子どもたちにとって楽しい学びの場でなければなりません。しかし、①の「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童の割合が5%もダウンしていることは大いに反省すべき点です。約7名の子どもが「楽しくない」と感じている要因を取り除くことが急務です。友達関係、教師との関係、授業内容が理解できているか、自分らしさが認められているか、自分によいところがあると感じられているか、学校に心の居場所があるか等々、今一度学級の子どもたちの実態を見つめ直し、いじめアンケート等も活用して原因を明らかにし、一人一人の子どもに寄り添った指導をするとともに、子どもたちにとって魅力的な学校づくりに取り組んでまいります。

健康・安全な生活と体力の向上、という観点から②③④⑬の結果をみますと、②「早寝・早起きができている」と④「歩いて登校している」の結果がよくないことが目立ちます。「早寝・早起き」については、保護者の82%が「早寝・早起きをしている」と答えているのに対して、「できている」と答えている児童の割合は69%で、保護者と児童の意識のずれが見られました。子どもたちが早寝・早起きできていない原因として、就寝前にテレビやスマホ、ゲーム画面などを見て、脳が覚醒してしまい、床についてもなかなか寝付けないといった状況があるのではないかと考えています。また、保護者のお仕事の関係で夕食が遅くなったり、保護者が起きていらっしやる間、一緒に起きていたりする子どももいるようです。さらに、昼間しっかり外遊びをするなどして身体を動かしていないことも考えられます。実際に、午前中にも関わらず居眠りをしている子どもを見かけることがあります。子どもたち自身が、睡眠の大切さを理解するとともに、よい睡眠をとるために生活習慣を整えようとする意欲をもてるよう、保健指導と保護者への啓発に力を入れていきたいと思ひます。

「歩いて登校している」と答えた児童の割合は昨年度より12%アップしました。今年度は1年生がしっかり歩いて登校しており、それに影響を受けて上学年の児童も歩いて登校する子どもが増えてきました。しかし、依然として50%台であり、ほぼ半数の児童が、毎日歩いて登校できていません。交通事情やご家庭の事情、また児童自身の体調不良等もあり、肯定的な回答が少なかったものと思われまひます。交通安全面を考慮すると、保護者の車による送迎はありがたいことでもあります。一方で、子どもたちの体力づくりや早起きの習慣づくりという面からは、徒歩通学には大きな価値があります。がんばれるときは徒歩通学に挑戦し、体育や外遊びでしっかり体力をつけるという方針で、学校での体力づくりにもっと力を入れていきたいと思ひます。

学力向上という観点から、⑤⑥⑦⑧⑭⑱の結果をみますと、⑦「習った漢字の読み・書き、計算や音読ができる」と答えた児童の割合が上がっているものの、⑤「毎日の宿題を忘れずにできている」、⑥「自主勉強や読書が自分から進んでできている」と答えた児童の割合が下がっています。自主的に学習に取り組む子どもの割合が下がっているのは残念ですが、高学年の自主学習ノートを見ると、自分なりのノートのまとめ方を習得している者が多く、楽しく自主学習に取り組んでいる様子がよく分かります。低・中学年の子どもの中には、保護者の方がノートに問題を書いてくださっている家庭もあり、それに応えるように子どもが頑張っており、ありがたいことだと思ひています。よい自主学習ノートを紹介するなどして、児童の意欲を喚起してまいります。

読書についても、毎木曜日の朝の活動の時間はもちろん、少し早く課題が終わったとき、休み時間など、隙間時間に気軽に本を手取る子どもをよく見かけまひます。毎週金曜日は家庭読書を宿題にして、本を借りて帰るように呼びかけていますが、全員の児童に浸透していないので、呼びかけ方を工夫し、家庭での読書を定着させていきたいと思ひまひます。

宿題については、家に帰ってすぐに取り組む習慣を身に付けさせたいところですが、習い事や家庭の行事などがあり、翌日、学校で取り組んでいる児童をちらほらと見かけます。どの学年も宿題として漢字・計算・音読がほぼ毎日出されていますが、これらは毎日真面目に取り組むことで、基礎・基本の力が身に付くと考えます。家庭にも協力を呼びかけ、毎日きちんと宿題を提出できるよう、宿題の内容や評価の仕方を工夫して、子どもたちが意欲的に取り組めるようにしてまいります。

⑧「タブレットを使うことで学習が分かりやすい」、⑭「授業の内容が分かる」、⑳「学校で勉強したことを生活の中で使っている」と答えた児童の割合が昨年度よりアップしているのは嬉しいことです。特に、タブレット利用で学習内容の理解が進んでいる背景には、道具としてのタブレットを授業に効果的に使用する場面が増えたことがあると思われます。社会や理科の調べ学習、漢字の書き順を確認するアプリの活用、理科の観察日記、学習のまとめ、自分の考えを発表するプレゼン作成、学級全員で考えを共有するアプリの活用、外国語や外国語活動の電子教科書の活用等々、タブレットの活用方法はどんどん拡がり、それにつれて子どもたちの発想も豊かになっています。教師も授業のどの場面でタブレットを活用するのが効果的か研究を重ねており、その成果が表れつつあるようです。今後もより効果的なタブレットの活用方法について研究を進めてまいります。

橘小学校では、学校全体でタブレットを利用した宿題を出してはいないため、子どもたちがタブレットを活用して家庭学習に取り組んでいる様子を保護者の皆さんが見ることは少ないかもしれません。しかし、疑問に思うことや調べたいことがあると高学年児童は気軽に利用しているようです。今後も学習の道具としてどんどん活用してほしいと思います。

道徳性の向上という観点から、⑨「当番・係活動・そうじを一生懸命している」、⑩「挨拶・返事・ありがとう、ができています」の結果をみますと、ほぼ90%の児童が「できています」と答えています。当番・係活動・掃除に関しては数字がアップし、挨拶・返事に関しては数字がわずかにダウンしています。

総じて、橘小学校の子どもたちは、挨拶もよくできており、自分の仕事に誠実に取り組むことができています。運動場の草抜きや落ち葉拾いも本当に一生懸命できています。また、朝の挨拶はどの児童も大変よくできており、「ありがとう」という言葉も学校のあちこちでよく聞かれます。しかし、「はい」という返事はまだ十分ではありません。教師が話しかけても「うん」という返事がよく返ってきます。「はい」と気持ちのよい返事になるよう、気持ちのよい返事が自分のやる気をアップさせ、周囲にも好印象を与えることを伝え、粘り強く指導を続けていきたいと思っています。

自尊感情の育成という観点から、⑮「先生はがんばったことをほめてくれる」、⑰「自分にはよいところがあると思う」の結果をみますと、93%の児童が「先生はほめてくれる」と答え、96%の保護者が「お子さんのよいところを認め、ほめている」と答えているにも関わらず、「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童が78%と低いことが非常に気にかかります。教師や保護者がしっかりほめているのに、自分に自信がない、自分によいところがあると思っていない子どもたちの自尊感情を高めしていくことが今後の大きな課題です。「ほめられる」という受け身の経験だけではなく、自分から困難なことに挑戦し、克服するといった経験から得た自信こそが子どもたちの本当の自尊感情につながるのではないかと考えます。「褒める」教育を基本として、「教え、見守り、褒める」だけではなく「挑戦させ、考えさせ、克服させる」といった、子どもたちにとって少しだけハードルの高い課題に挑戦させてくことも考えていきたいと思っています。

⑪「いじめをしないで友達と仲良くしている」と答えた児童が100%であったこと、また⑱「困ったときに助けてくれる友達がいる」と答えた児童が昨年度より増えて95%となったことは大変嬉しいことです。「いじめをしよう」と思っている子どもはいないと思いますが、友達との関わりの中で、行き違

いがあつたり、喧嘩をしたりすることがあつて、相手が傷ついていることに気付かない、といったことはあるかもしれません。そうであっても、助けてくれたりしっかり話を聞いてくれたりする友達がいることで、傷ついた子どもは救われますし、傷つけてしまった子どもに気付きを促すことができます。多くの橘小学校の子どもたちが、困ったときに助けてくれる友達がいると答えていることに安心しました。しかし、5%の児童がそのような友達がいないと答えていることは大きな課題です。教師が困っている児童にすかさず声をかけ、助ける姿を子どもたちに見せること、子どもたち同士の交流を活発にすること、力を合わせて一つのことをやり遂げさせる経験を増やすこと、学級の子どもみんなと一緒に遊ぶ時間を増やすこと等、すべての子どもが「助けてくれる友達がいる」と自信をもって答えられるよう、楽しい学級づくりを通して、子どもたち同士のコミュニケーションを活性化し、互いのよさを認め合う人間関係を育てていきます。

⑬「地震や津波の時の避難の仕方が分かり、行動できる」と答えた児童が95%で、昨年より2%アップしました。今年度も自主防災会の皆さんのお力を借りて、様々な防災教育に取り組み、学校としては、「徳島県まなぼうさい賞 活動賞」と「1.17 防災未来賞『防災甲子園』奨励賞」を受賞しました。今年度は、保護者や地域の方に呼びかけて「こどもユレタキャラバン」を実施し、多くの方にご参加いただき、児童と一緒に訓練をすることができました。また、5年生はNHKの「とく6徳島」内の「防災テクテク」のコーナーとコラボし、災害発生時の危険を予測しながら町歩きをしました。こういった新しい取り組みが評価されたと考えております。

避難所を巡るウォークラリー、防災フェスタ、下校時避難訓練、和光神社見学、昭和南海地震や南海トラフ大地震について知る学習、龍谷大学出前授業等々、毎年、たくさんの避難訓練や防災学習に取り組んでいますが、「備えあれば憂いなし」です。実際に災害が起きたときに、自分で考え、判断し、命を守る行動がとれる子どもを育てるため、今後も内容や方法に工夫や改善を重ね、実践的な訓練や学習を重ねていきたいと思ひます。

⑭「阿南市や橘町が好きだ」と答えた児童は91%で、昨年度より2%アップしました。今年度は創立150周年記念行事があり、また、地域の方との交流に重点をおいたふるさと学習に取り組んだこともあり、多くの子どもたちが橘町のよさを再認識し、12月の記念集会でも「橘町の人々は優しくて親切です」「人が温かい橘町が好きです」と発表してくれました。コロナ禍前に実施していた全町運送会や地域の高齢者の方との交流行事も少しずつ復活しています。今後も、100%の児童が「阿南市や橘町が好きだ」と答えることを目差し、地域との交流学習やふるさと学習に力を入れていきたいと思ひます。合わせて、学校再編統合を視野に入れ、近隣の小学校との交流を活発にし、そのことを通して地域のよさを再発見するような活動も取り入れていきたいと思ひます。

⑮「将来の夢を叶えるためがんばっている」と答えた児童の割合は86%で、昨年度より11%アップしています。昨年度から引き続き、学校教育目標としていただだけに、嬉しく思っています。今年度は、盲導犬ユーザーやパラアスリートの方との交流、各方面で活躍されている地域の方との交流なども増え、様々な人の生き方に触れる中で、「人の役に立つ仕事に就きたい」「社会に貢献したい」「自分の得意なことを生かしたい」と具体的な夢やそこに至るための目標を持つ児童が増えたようです。また、150周年記念行事の中で、橘小学校の先輩が様々な分野で秀でた活躍をされていることを知り、「自分も好きなことを追求していきたい」と思つた児童も多かつたと感じています。人は人との出会いで成長します。来年度も様々な人との出会い、特に地域の方との交流の場をさらに設けていきたいと思ひます。

② 学校の取組に関して昨年度との比較（保護者による評価）

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた保護者の割合

アンケート項目	R5保	R6保
⑫学校は、学力向上や学習の定着のために熱心に取り組んでいる。	87	<b>93</b>
⑬学校は、子ども一人一人を大切に、子どもの発達に応じて人権意識を育てている。	97	<b>88</b>
⑭学校は、命を大切に、健康な体づくりのための教育活動に取り組んでいる。	97	<b>97</b>
⑮学校は、いじめや不登校の防止とその対応を適切に行っている。	87	<b>91</b>
⑯学校は、防災教育や安全対策を適切に行っている。	100	<b>100</b>
⑰学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなどで学校の様子が学習の内容を保護者や地域に分かりやすく伝えている。	97	<b>98</b>

⑫の学力向上の取組について、「熱心に取り組んでいる」と答えた方の割合が、昨年度の87%から93%へとアップしています。学校では、学力向上実行プランに基づき、タブレットを用いた調べ学習や発表力の育成、視写タイムや子ども新聞タイムなどの積み重ねによる読み・書きの力の定着、音読発表や行事作文による表現力の育成、「学習の手引き」に基づく自主学習ノートの推進などに取り組んできました。今年度はその成果を、お子さんの家庭学習の様子やノートや作文・テストといった具体的な成果物を通して評価して下さったのではないかと考えております。児童アンケートの⑧「漢字の読み書きや計算、音読ができる」に88%の児童が「できる」と答え、90%の保護者が「子どもは漢字の読み書きや計算、音読ができています」と答えています。基礎的な学力の定着を児童・保護者ともに実感していることから、学校の取組の成果を評価して下さっていると考えます。今後も基礎・基本の徹底を継続し、それらを活用して思考力・判断力・表現力を伸ばすような学習活動を展開していきたいと思えます。

⑬の豊かな心の育成について、「子どもの発達に応じて人権意識を育てている」と答えた方の割合が、昨年度の97%から88%に下がっていることは、大きな課題です。本年度は、阿南第二中学校区人権教育研究会の会場校となり、研究主題「豊かな人権感覚を身に付け、主体的に行動できる橘っ子の育成～一人一人の違いや仲間の多様性を認め、共に支え合える仲間づくりを通して～」を設定し、一年間を通して人権教育に取り組んできました。ハンセン病元患者を巡る差別問題や同和問題、障害者差別やいじめ問題等を扱った人権学習や、人権・いじめ防止委員会による朝の挨拶運動、ありがとうの手紙、「ふわふわことば」の掲示、盲導犬ユーザーやパラアスリートとの交流会、「橘っ子いじめゼロ宣言」の作成、異学年集団「のびのび班」の活動などに取り組んできました。

その結果、子どもたちの朝の挨拶や「ありがとう」の言葉が学校中に響きわたるようになり、「大丈夫?」「手伝うよ」と友達を気遣う様子があちこちで見られるようになりました。毎週1回、お昼の校内放送で紹介される「ありがとうの手紙」も「一緒に遊んでくれてありがとう」「大丈夫と言ってくれて嬉しかったよ」といった内容が増えてきました。相手を大切にする気持ちや互いに認め合う気持ちを育むことができたのではないかと考えておりますが、保護者の方にその姿をしっかりと伝えることができなかつたと反省しております。今後は、人権学習の様子や子どもたちの心の育ちの面についても、学校からしっかり情報発信してまいります。

⑭の体力向上に関する取組について、昨年度に引き続き97%の方が肯定的に評価して下さっています。今年度も、阿南市小学校水泳記録会、陸上記録会、阿南市小学校一輪車大会などにたくさんの児童が参加しました。5月から6月にかけて行った校内体操教室にもたくさんの児童が参加し

ました。12月に JA アグリ阿南陸上競技場で実施した福井小学校との交流持久走大会に向けての練習では、「福井小学校には負けないぞ」という競争心から、カー杯走る姿が見られました。持久走大会当日も、両校が抜きつ抜かれつを繰り返しながら、全員が完走することができました。

また、体育の授業では、5・6月は跳び箱・マット・鉄棒運動、9・10月は幅跳びや高跳び、11・12月は持久走、1月はなわとびと、1年生から6年生までが同時期に同種の運動に取り組むため、上級生の姿をめあてに下級生ががんばる姿が見られたことが非常によかったと考えています。身近に目標とする友達や上級生がいることは、子どもたちのやる気を刺激します。今後も、他の学年との交流を活発にして、具体的なめあてを設定した体力作りはもちろん、登校後や休み時間の外遊び、縦割り班活動を利用した定期的な外遊びを推進し、子どもたちの体力向上に取り組みたいです。

⑳のいじめや不登校への対応について、「いじめや不登校の防止とその対応を適切に行っている」と答えた保護者の割合が、昨年度の87%から91%とアップしています。今年度も大きないじめ事案は発生していませんが、「友だちに嫌なことを言われた」といった訴えを子どもたちから聞くことができました。すぐに担任や生徒指導担当者が話を聞き、相手の児童と話し合い、解決してきましたが、子どもたちの気になることについては迅速に保護者の皆さんと情報共有を図るなど、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に引き続き努力してまいります。また、児童のよくなった点や気になる点について、現在、毎週金曜日に全教職員で共通理解を図っていますが、今後もこの取組を継続し、児童の気になる行動については迅速に対応できるようにしてまいります。そして、何よりも楽しい仲間作り、楽しい学校作りに尽力してまいります。

㉑の防災教育・危機管理については、昨年度に引き続き、100%の方が本校の防災教育や安全対策について肯定的に評価してくださっています。今年度も、自主防災会の皆さんと連携して、ウォークラリー、こどもユレタキャラバン、防災フェスタ、下校時避難訓練、南海トラフ巨大地震に関する出前授業、和光神社の見学、NHK「とく6徳島」の「ぼうさいてくてく」との町歩き等々、たくさんの活動に取り組みました。また、龍谷大学との連携授業にも取り組みました。今後も、災害発生時に児童自身が「命を守る行動」をとることができるように、防災教育のアップデートに取り組んでまいります。

また、子どもたちが安心・安全に過ごすことができるよう、施設・設備の点検や修繕、不審者対策や自然災害を想定した避難訓練、食物アレルギー対策、生活安全や交通安全の指導に努めてまいります。

㉒の保護者や地域への情報発信については、98%の方が学校だよりやホームページなど、学校の情報発信を肯定的に評価してくださっています。今年度は特に、ホームページの創立150周年事業のページを充実させ、関連する活動については随時アップさせていただき、たくさんの方に閲覧していただきました。また、各学年の学年だよりも、子どもたちの活動の様子が分かる写真中心のものにレイアウトを変更し、好評価をいただいております。今後も、様々な媒体を活用し、学校の教育活動について積極的に情報発信してまいります。

また今年度は、災害発生時の安否確認メール一斉送信テストを行いました。安否確認フォームでの回答率は98%で、ほぼすべての家庭から第一報としての安否確認情報を得ることができました。今後、大きな災害が発生した際の情報収集手段の一つとして、システムを構築することができましたが、複数の手段をもっておくことが大切だと考えております。今後もよりよい方法を模索してまいります。

(3)学校運営に関して昨年度との比較(教職員による自己評価)

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員の割合

アンケート項目	R5	R6
⑳学校運営に職員の意見が反映されている。	100	76
㉑職員会、終礼などが機能している。	100	100
㉒気軽に相談し合える人間関係ができています。	93	92
㉓問題行動が起こったとき、組織的に対応できている。	100	100
㉔校内研修で学んだことが実践に役立っている。	100	92
㉕業務の効率化、最適化に取り組んでいる。	93	93
㉖ワークライフバランスに留意し、働き方改革に取り組んでいる。	100	84

㉔の「学校運営に職員の意見が反映されている」について、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員の割合が、昨年度の100%から76%と大幅に減少していることは、大きな課題です。今年度は、阿南第二中学校区の人権教育研究会の会場校であったこと、創立150周年記念集会を実施したことなどで、教職員の負担が大きかったことが原因と考えられます。人権教育研究会に向けては全員が研究授業を実施し、創立150周年記念集会も全教職員で準備にあたるなど負担は大きかったと思われます。

来年度は、大きな行事等はありませんので、教職員同士が学校運営についてじっくりと話し合い、積極的に意見や考えを出し合い、それを学校運営に反映していけるよう、教職員の主体性を引き出していきたいと考えます。引き続き、「語り合い、認め合い、高め合う活力ある教職員」をめざす教職員の姿として掲げ、情報共有と組織的対応の徹底、何でも話せる「風通しのよい職員室」の実現、助け合い・支えあう「お互い様精神」の推進、若手・中堅・ベテランが互いに学び合う職員室文化の実現に、教職員が一丸となって取り組んでいきたいと思います。

㉖の「ワークライフバランスに留意し、働き方改革に取り組んでいる」に肯定的に答えた職員の割合が、100%から84%に減っていることも大きな課題です。人権教育研究会と創立150周年記念集会の二つの大きな行事の負担、それぞれの責任者への大きな負担があったと思われます。定時に退庁できる者がいる一方で、遅い時間まで残って仕事をしている者がいました。業務の平準化を図りたいところですが、教職員の能力、健康状態、家族状況等は様々で、皆に一律に仕事を割り振ることが難しい面があります。また、子育て世代、介護世代の教職員が多く、休みを取る教職員が重なると、一部の教員に負担が集中していた面もありました。来年度は、児童数減少に伴い、教員が1名減ります。一人あたりの仕事が増えることが十分予想されますが、大幅に業務を減らす、行事や会議、出張を精選する、校務の効率化を図る、不要な校務を削減するなど、全教職員で知恵を絞り、教職員が心身のゆとりをもって働くことができるよう、実効性のある働き方改革に取り組んでまいります。



## 5 学校運営協議会の実施

これらの結果をもとに、令和7年2月20日（木）に第2回学校運営協議会を開催し、委員の皆様から次のような意見をいただきました。

- ・児童の91%は朝食を食べていると答えているが、9%の児童が「食べていない」と答えている。なぜ朝食をとることができていないのか、理由を調査して、対策を考えてはどうか。
- ・両側に高いブロック塀がそびえる狭い路地が通学路の途中にあるが、大きな地震が起きたとき非常に危険なので、通学路を見直してはどうか。
- ・休み時間に外で遊ぶ児童が少ないのは、遊具が少ないことも関係しているのではないかと。遊具の設置を市に要望してほしい。
- ・児童の自尊心を高めるためには、先生や保護者がほめることはもちろん、児童自身の内面を鍛えることが大切である。少しだけ難しい課題に挑戦する場面をしっかりと作ってほしい。
- ・夏休みのお手伝いシートのように、小さな目標を設定させ、それができたら丸をつけたりシールを貼ったりすることによって達成感を味わわせ、自信を積み重ねられるようにしてほしい。
- ・ほとんどの児童は橋町が好きだと思うが、「お店や遊ぶところが少ない」という理由で、「余り好きではない」と答えている者もいると推測する。基本的には今後も、ふるさとを愛する気持ちを育てる教育を継続してほしい。
- ・クラブ活動の時間に、地域人材を招聘して、将棋を教えてもらうなどの活動をしてはどうか。
- ・市の委託研究「ふるさとを愛し、ふるさとの未来を守る児童の育成」に取り組んでくれたことは大変嬉しかった。今後も、地域との交流を進めるため、自分たちも地域に働きかけていきたい。
- ・教職員の負担になるのではないかと、出前授業等の申し出を躊躇している地域の人も多い。学校からの要望と地域人材のマッチングができる場があればよいのではないかと。
- ・令和6年度はブロック人権と創立150周年行事があり、先生方も大変であったと思う。今後も無理をせず、働き方改革を進めてほしい。

## 6 今後の取組について（課題）

「自分に自信をもち、たくましく夢を追求する児童」、「ふるさとを愛し、ふるさとの未来を守る児童の育成」を実現していくため、次のように課題解決を図っていきます。

- ① 児童の気持ちや考えを尊重し、児童が主体的に取り組むことのできる教育活動を工夫・実践することを通して、楽しい学校づくりに努めます。
- ② 褒める教育を徹底するとともに、「挑戦させ、考えさせ、克服させる」場面を創出し、スモールステップで課題克服と自信獲得を繰り返すことを通して、児童の自尊感情を高めます。
- ③ 「早寝・早起き・朝ご飯」「歩いて登校、外遊び」「ゲームを休んで運動しよう」をスローガンに、家庭に協力を呼びかけ、基本的な生活習慣を徹底させます。生活習慣の乱れによる遅刻・欠席ゼロを目指します。
- ④ 人権教育については本年度の取組の継続を基本に、「いじめゼロ」の学校づくり、自他の命と人権を大切に育てる児童の育成に取り組めます。合わせて、教職員の人権意識向上を図るため、人権授業の徹底、教職員研修の深化を図ります。
- ⑤ 引き続き、地域の「人・もの・こと」を生かしたふるさと学習を推進し、児童の故郷愛を高めます。合わせて、地域で活躍する人の生き方に触れるキャリア教育にも取り組めます。
- ⑥ 縦割り班の「のびのび班」を最大限に生かし、外遊びや体力作りを活性化するとともに、いじめのない仲間作りを推進し、校内に活力を生み出します。
- ⑦ 地域と連携した交通安全指導、防災教育をさらに推進し、児童の命を守ると共に、災害発生時に自分で考え・判断し、命を守る行動がとれる実践力を育てます。
- ⑧ 学年間交流、他校との交流、地域との交流など、児童が人との出会いから学ぶ場面を創出し、校内に賑わいと活気を生み出します。